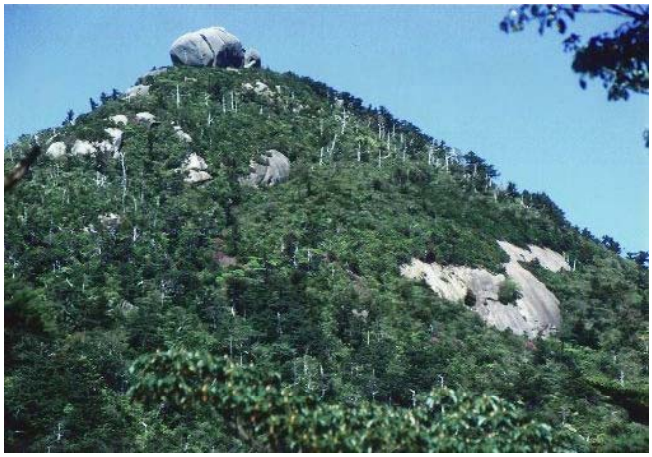
屋久島スギ原始林

【所　在　地】熊毛郡屋久島町
【種　　別】国指定特別天然記念物
【指定年月日】昭和 29 年３月 20 日（国指定天然記念物　大正 13 年 12 月９日）



屋久島は九州最高峰の宮之浦岳（1,936m）をはじめ，1,800m 級の山が６座，1,000m を越す山も 30 座以上ある山岳島である。気候区分では，海岸付近の亜熱帯から山頂付近の冷温帯まで幅広い気候帯を占め，「月に 35 日雨が降る」といわれるほど降水量に恵まれるため，植物相は極めて多様で，数多くの北限種や南限種，固有種を観察することができる。

屋久島の植生帯は，海岸付近の亜熱帯照葉樹林，海抜 1,000m までの暖温帯照葉樹林，1,700m までの針広混合林，そして山頂付近の亜高山性の低木・荒原というように明らかな垂直分布をなしている。その中で天然のスギは，標高約 700m から 1,700m の範囲に自生し，下部の海抜約 1,000m ではアカガシやヤブツバキなどの常緑広葉樹と，上部ではヤマグルマやハリギリ，ナナカマドなどと混生している。

屋久島では樹齢 1,000 年以上のものをヤクスギ（屋久杉），それ以下のものをコスギ（小杉）とよぶ。多雨多湿の気象条件にあることから，スギの年輪は詰まっていて木目が美しく，多量の樹脂を含んでいるため腐りにくく強い香りがあるなどの特徴がある。また樹齢数千年の巨木も現存しており，根回り 43m の縄文杉や大王杉の他，宝暦年間（1751 ～ 64 年）に伐採されたウイルソン株は，地上３ m の幹の周囲が 33m もあり，現在は大杉神社として祭られている。天然記念物に指定されている区域は，主として山頂から三方に走る稜線地帯で，自然公園法に基づく特別保護区と一致する。また，平成５（1993）年 12 月には世界自然遺産に登録されている。